



フォルテピアノの名手、ベザイデンホウトが解き放つモーツァルトの真実。

それは2013年10月、京都公演でのこと。

コンサート終了後、ロビーに出て来たあるご婦人が、からだを震わせ

「今まで聴いてきたモーツァルトは、いったいなんだったの!」と

声を上げ立ち尽くしている姿を目の当たりにしました。

クリスのライブ体験で、本当の“モーツァルト”に出逢えた人びとが増えています。

フォルテピアノの魅力を伝えたい

フォルテピアノは、現代のピアノのご先祖で、初期のピアノを現代のピアノと区別するときそう呼ばれています。最初は主に王侯貴族を中心に普及し、モーツァルトやベートーヴェン、ショパンの時代、年号でいいますと1700年くらいから1850年頃までに製造されたピアノで、現代のピアノとは、だいぶ違う外見と音色をもっています。この150年の間でも時期、地域、製作者によって様々なタイプがあります。

ベザイデンホウトが弾くフォルテピアノはモーツァルトと同世代のウィーンの楽器製作者アントン・ワルター (1752-1826) が1800年頃製作した楽器をモデルに、現代の楽器製作者ポール・マクナルティが2002年に復元したものです。ベザイデンホウトはCDレコーディングやロンドンの自宅でもマクナルティ製作のワルター・モデルを愛用しています。鍵盤数は60数鍵と現代ピアノの88鍵に比べて少なく、白鍵と黒鍵の色が逆、鍵盤の重さもモダン・ピアノの約1/4、鍵盤の深さは著しく浅くできています。その音色は低音から高音まで均一ではなく、バス、テノール、トレブル、アッパー・トレブルのように4段階ほどに分かれますが、まるでファゴットやテノール歌手、ハープ、室内オーケストラのような多彩さを秘めています。鍵盤が浅く軽いチェンバロやクラヴィコード同様、繊細なタッチが要求されます。

ウィーンで活躍したモーツァルトは、地域で発展したこの時代のフォルテピアノに出逢い、その魅力に惹きこまれたからこそ、数々の傑出したソナタや変奏曲が生まれたことを私たちは忘れてはならないでしょう。そしてこれらのピアノにはその繊細さに合った演奏法が必要です。ベザイデンホウトはその演奏法のもっとも優れた才能のあるアーティストとして知られ、特にモーツァルトとその作品を心から愛し尊敬し続け、彼の研究と実践の成果は欧州の一流古楽オーケストラや著名アーティストから絶大に信頼されています。



ザルツブルグの生家にあるモーツァルトが弾いたフォルテピアノ(A.ワルター作)



フォルテピアノのひざレバー。足ペダルはなく、ひざで押し上げて長音、弱音の効果を付ける。

You Tubeで聴く

アレグロミュージック <http://www.allegromusic.co.jp/>



「百聞は一見にしかず」、まずはアレグロミュージックのHPからYouTube映像(ハルモニウムディのCDプロモーション/Fantasies & Variations)をご覧ください。CD音源にはない残響が充分に残されているため、まるでコンサートホールの中のようなライブ感覚が味わえる。ぜひ、耳を澄ませて聴いて欲しい。

CDで聴くたとえば K.281のソナタ

〈モーツァルト:鍵盤楽器のための作品集Vol.5 & 6に収録〉



清澄な響きに己の耳が清められるかのよう。第1楽章の高音、'レ'の音の出し方などなんと素晴らしいだろう。第2楽章もことのほか美しい。ピ

アノ協奏曲第21番の第2楽章とほぼ同じ音型が出てくるところなど、しばらく耳から離れないほどピュアな美しさだ。自然で作為的なところがまったくない。無常の美を越えているとも言えよう。どのソナタも自在なテンポ、間、ダイナミクスは無論のこと、繰り返し後の装飾のアイディア、センスも豊かだ。高音部はデリカシーの極地、バネのように跳ね上がる低音の打鍵も息を飲むほどすばらしい。フォルテピアノの響きはこれまで以上に美しい。膝ペダルの使い方が巧みで響きの味わいは時空を越える。

クリスティアン・ベザイデンホウト〈フォルテピアノ〉 Kristian Bezuidenhout, Fortepiano

いま最も注目されるエキサイティングな鍵盤楽器奏者。フォルテピアノの名手であるが、チェンバロ、モダンピアノにも精通している。21歳でブルージュ国際音楽コンクールのフォルテピアノ部門で第1位と聴衆賞という二重の栄誉に輝く。

フライブルク・バロック・オーケストラ、シャンゼリゼ管弦楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、コンチェルト・ケルンなど世界をリードするアンサンブルに、たびたびゲスト・アーティストとして招かれ、ときにはディレクターとしての役割も担っている。またブリュッヘン、ホグウッド、ガーディナーなど世界的に著名な指揮者と、ソリストではベイエ、カルミニョーラ、ファウストラとも共演している。

モーツァルトの鍵盤楽器作品全9集をはじめ多くのCDがリリースされ、エディソン賞、ドイツ・レコード批評家賞、エコー・クラシック賞など数多く受賞。2013年グラモフォン誌の「アーティスト・オブ・ジ・イヤー」にノミネートされた。最新ディスクはフライブルク・バロック・オーケストラとのモーツァルトのピアノ協奏曲K413～415を収めたVol.2も含まれる。

2017/18シーズンは、フライブルク・バロック・オーケストラの芸術監督、イングリッシュ・コンサートのアリソン・バークマン指揮者としても活動。ソリストとしてはヘレヴェッヘ/シャンゼリゼ管、コーエン/ル・ヴィオロン・ドゥ・ロイと共演、ロンドン、ローマ、アムステルダム、シュトゥットガルト、ミュンヘン、ケルン、ベルリン、アメリカ、日本でリサイタル、室内楽コンサートが予定されている。

宗次ホール主催の新作コンサートチラシを毎月自宅にお届けする

宗次フレンズ 会員募集

会員登録していただいたフレンズ会員様は一般発売より先行してチケットをご購入頂けます

会員登録・年会費 無料

詳しくは、宗次ホール (052-265-1715) までお問合せ下さい。

交通アクセス
地下鉄栄駅 ⑫ 番出口より東へ徒歩4分

名古屋高速 都市環状線
東新町出口
栄駅
NHK名古屋放送局
愛知芸術文化センター
東海テレビ
地下鉄東山線
中部電力
マクドナルド
宗次ホール
ベネッセホール
栄
広小路通
12番出口
中区役所
栄三丁目
栄四丁目
栄五丁目
栄六丁目
栄七丁目
栄八丁目
栄九丁目
栄十丁目
栄十一丁目
栄十二丁目
栄十三丁目
栄十四丁目
栄十五丁目
栄十六丁目
栄十七丁目
栄十八丁目
栄十九丁目
栄二十丁目
栄二十一丁目
栄二十二丁目
栄二十三丁目
栄二十四丁目
栄二十五丁目
栄二十六丁目
栄二十七丁目
栄二十八丁目
栄二十九丁目
栄三十丁目
栄三十一丁目
栄三十二丁目
栄三十三丁目
栄三十四丁目
栄三十五丁目
栄三十六丁目
栄三十七丁目
栄三十八丁目
栄三十九丁目
栄四十丁目
栄四十一丁目
栄四十二丁目
栄四十三丁目
栄四十四丁目
栄四十五丁目
栄四十六丁目
栄四十七丁目
栄四十八丁目
栄四十九丁目
栄五十丁目
栄五十一丁目
栄五十二丁目
栄五十三丁目
栄五十四丁目
栄五十五丁目
栄五十六丁目
栄五十七丁目
栄五十八丁目
栄五十九丁目
栄六十丁目
栄六十一丁目
栄六十二丁目
栄六十三丁目
栄六十四丁目
栄六十五丁目
栄六十六丁目
栄六十七丁目
栄六十八丁目
栄六十九丁目
栄七十丁目
栄七十一丁目
栄七十二丁目
栄七十三丁目
栄七十四丁目
栄七十五丁目
栄七十六丁目
栄七十七丁目
栄七十八丁目
栄七十九丁目
栄八十丁目
栄八十一丁目
栄八十二丁目
栄八十三丁目
栄八十四丁目
栄八十五丁目
栄八十六丁目
栄八十七丁目
栄八十八丁目
栄八十九丁目
栄九十丁目
栄九十一丁目
栄九十二丁目
栄九十三丁目
栄九十四丁目
栄九十五丁目
栄九十六丁目
栄九十七丁目
栄九十八丁目
栄九十九丁目
栄百丁目

くらしの中にクラシック

宗次ホール

Munetsugu Hall

名古屋市中区栄4-5-14 〒460-0008
TEL:052(265)1715 FAX:052(265)1716
E-mail info@munetsuguhall.com
URL www.munetsuguhall.com

宗次ホールチケットセンター
営業時間:10:00～16:00
※13:45以降に開演の公演がある場合は18:00まで営業
年中無休(年末年始、施設メンテナンス日を除く)